

千葉県野田市におけるコウノトリの野生復帰事業と住民意識 —ウェブ調査データを用いて—

*高橋正弘¹・本田裕子¹

The re-introduction project of Oriental White Storks at Noda, Chiba, Japan and its awareness of residents: analyzing a web survey data

* Masahiro Takahashi¹ and Yuko Honda¹

¹ Department of Public Policy, Faculty of Socio-Symbiosis, Taisho University

3-20-1 Nishi-sugamo, Toshima-ku, Tokyo 170-8470, Japan

* E-mail: m_takahashi@mail.tais.ac.jp

背景・目的

本報告の調査対象である千葉県野田市では、2012年12月からコウノトリの飼育・人工繁殖への取り組みが開始され、2015年6月に最初の放鳥が行われた。それ以降毎年繁殖が成功して放鳥が続き、これまで14羽が放鳥されている。しかしながら放鳥されたコウノトリは野田市内での野外繁殖に至っておらず、多くが他の地域に移動し、場合によってはそこでの野外繁殖に成功する個体も出てきている。

筆者らは最初の放鳥が野田市で行われる2015年6月に、野田市民を対象としたアンケート（質問紙調査）を実施している（高橋・本田 2016）。その結果によれば、野田市内での野生復帰の取り組みに対して肯定的な意見が多く、またコウノトリを「貴重な鳥」であるとともに「自然環境のパロメータ」と捉えていることが明らかになった。

本報告は、最初の放鳥から約6年半が経過した時点で、コウノトリおよびコウノトリの野生復帰を野田市民がどのように捉えているかを明らかにすることを目的として、ウェブ調査を実施したものであり、野生復帰されたコウノトリに対する現時点の野田市民の意識を把握するとともに、今後の野田市内での野生復帰とそれをめぐる環境教育・意識啓発の方向性について考察を行うことを目的とする。

¹ 大正大学社会共生学部公共政策学科
170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1

* E-mail: m_takahashi@mail.tais.ac.jp

方法

前述の2015年に野田市民を対象として実施したアンケート（高橋・本田 2016）では、選挙人名簿を用いて対象者を抽出し、郵送法により実施したが、回収率は29.6%と低かった。2020年初頭から続く新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大の影響を考慮すると、郵送法での調査の実施ではさらなる回収率の低下が危惧された。そこで本報告の調査では、非接触型の調査としてインターネットを用いる方法を用いることとした。

インターネットを用いたアンケートについては、日本社会学会が2020年に刊行した「社会学評論」71巻1号において特集号が組まれるなど、社会調査の手法として注目されている。例えば杉野・小内（2020）は、この調査での対象者をインターネット上で募るという「リクルート手段」と、対象者から回答を得る手段としての「データ収集モード」の2つに分けている。そこで本報告では、母集団を特定した上で実施する前者の手法に着目し、インターネット上で「リクルート手段」として用いたアンケートをウェブ調査と表記することとする。

ウェブ調査には短期間に一定の回収数を確保でき、費用も抑えられる等の利点があるが、インターネット利用者に回答者が限定されることから、「代表性の問題」が課題として挙げられている（杉野・小内 2020）。しかしながら日本学術会議社会学委員会「Web調査の課題に関する検討分科会」は、2020年7月に「Web 調査の有効な学術的活用を目指して」（注1）とする提言を行っており、そこでは「調査の利点を考慮するならば、無作為標本を用いない Web 調査は学術的に意味がないという単純な議論をすることはできない」と述べられ、「問題点を的確に理解した上での活用」を提言している。

以上に加えて、非接触型での調査の必要性および需要の高まりを踏まえれば、旧来の質問紙を用いた郵送によるアンケートに代わってウェブ調査が増加していくことが予想される。そのため、本報告のアンケートもウェブ調査を採用し、野田市によって取り組まれている野生復帰事業をめぐる住民意識の検討材料として位置づける。

ウェブ調査では、株式会社フォーラムにモニター登録

表1. アンケート調査票の構成.

| 質問番号 | 質問内容 |
|------|----------------------------------|
| 1 | 回答者の年代 |
| 2 | 回答者の性別 |
| 3 | 回答者の居住地区・野田市内の居住年数 |
| 4 | 回答者の職業 |
| 5 | 環境問題への関心の有無 |
| 6 | 写真選定 (コウノトリを選ぶ) |
| 7 | 環境政策・取り組みに関する認知 |
| 8 | コウノトリに関する認知 |
| 9 | 野田市内で野外にいるコウノトリの目撃の有無と頻度 |
| 10 | 野田市での野生復帰の賛否と理由 |
| 11 | コウノトリの野田市内での生息希望と理由 |
| 12 | 野田市内での野生復帰の取り組みに関する期待と内容 |
| 13 | 野田市内でコウノトリの生息数が増加するために何かをする意思と内容 |
| 14 | コウノトリの野生復帰のための環境教育や啓発活動 |
| 15 | 野田市内でコウノトリが定着していないことについて |
| 16 | 回答者自身のコウノトリの位置づけ |
| 17 | 野田を象徴するもの |
| 18 | 「野田の自然」のイメージ |
| 19 | 野田市の環境課題 |
| 20 | コウノトリ・野生復帰・放鳥についての意見 (自由記述) |

表2. 回答者の年代・性別.

| 年代 | 男 (%) | 女 (%) | 回答しない (%) | 合計 (%) |
|-------|------------|------------|-----------|-------------|
| 20歳未満 | 4 (1.4) | 7 (2.5) | 0 (0.0) | 11 (3.9) |
| 20歳代 | 3 (1.1) | 10 (3.6) | 1 (0.4) | 14 (5.0) |
| 30歳代 | 15 (5.4) | 24 (8.6) | 0 (0.0) | 39 (14.0) |
| 40歳代 | 31 (11.1) | 30 (10.8) | 1 (0.4) | 62 (22.2) |
| 50歳代 | 45 (16.1) | 23 (8.2) | 0 (0.0) | 68 (24.4) |
| 60歳代 | 39 (14.0) | 15 (5.4) | 0 (0.0) | 54 (19.4) |
| 70歳代 | 23 (8.2) | 5 (1.8) | 0 (0.0) | 28 (10.0) |
| 80歳以上 | 3 (1.1) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 3 (1.1) |
| 回答しない | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) |
| 全体 | 163 (58.4) | 114 (40.9) | 2 (0.7) | 279 (100.0) |

表3. 回答者の居住地区.

| 地区名 | 人数 (%) |
|--------|-------------|
| 南部地区 | 67 (24.0) |
| 川間地区 | 53 (19.0) |
| 中央地区 | 44 (15.8) |
| 北部地区 | 27 (9.7) |
| 木間ヶ瀬地区 | 16 (5.7) |
| 福田地区 | 15 (5.4) |
| 関宿地区 | 12 (4.3) |
| 東部地区 | 11 (3.9) |
| 二川地区 | 6 (2.2) |
| わからない | 28 (10.0) |
| 回答者数 | 279 (100.0) |

表4. 野田市内での居住年数.

| 選択肢 | 人数 (%) |
|------------|-------------|
| 生まれてからずっと | 58 (20.8) |
| 3年未満 | 14 (5.0) |
| 3年以上5年未満 | 9 (3.2) |
| 5年以上10年未満 | 24 (8.6) |
| 10年以上20年未満 | 54 (19.4) |
| 20年以上 | 120 (43.0) |
| 回答者数 | 279 (100.0) |

注:「生まれてからずっと」と回答した58人の年代は、20歳未満7人、20歳代6人、30歳代13人、40歳代12人、50歳代7人、60歳代11人、70歳代1人、80歳代1人となる。

されている野田市在住の279人から回答を得た。調査の実施期間は2022年1月20日から1月28日までであった。なお野田市の人口は、2022年1月1日時点の住民基本台帳によれば153,807人である。

調査に際しての質問は、回答者の属性およびコウノトリや野生復帰に関する意識を問う質問を含めて計20問を選定した (表1)。

結果

1. 回答者の属性

回答者の特徴 (年代・性別, 居住地, 居住年数, 職業, 環境問題への関心) についての結果と, 年代・性別については回答者の母集団である野田市全域の住民を代表しているかかについて検討する。

1-1) 回答者の特徴

回答者の年代・性別 (表2) では, 50歳代男性が最も多く, 次に60歳代男性が続いた。居住地は, 南部地区に居住する住民が最も多くなった (表3)。野田市内での居住年数では, 「20年以上」が約4割となった (表4)。

職業は, 兼業で農業従事している回答者がいること等を想定し, 複数回答とした (表5)。その結果, 「勤め人」が最も多く, 次いで「無職」, 「アルバイト・パートタイム」となった。

環境問題への関心については, 約7割が「関心あり」との結果となった (表6)。

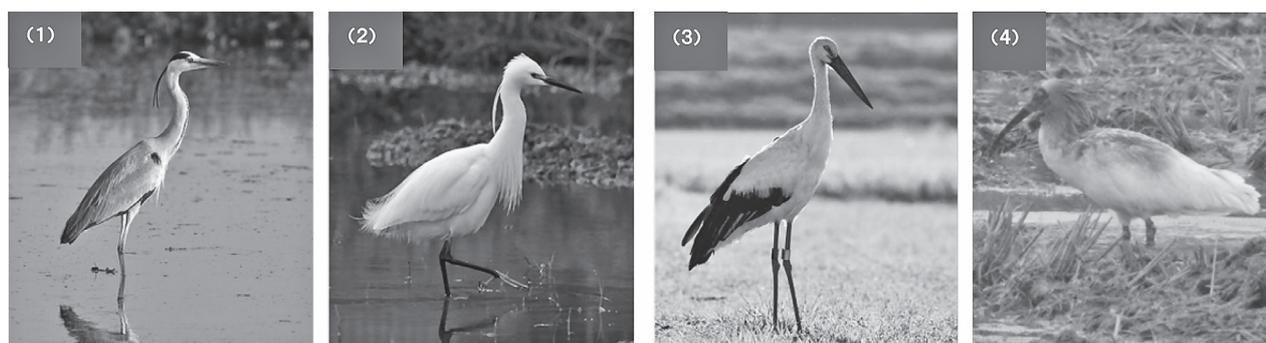


図1. アンケートで質問した4種の写真。(1) アオサギ。(2) コサギ。(3) コウノトリ。(4) トキ。(アオサギ・コサギ・コウノトリの写真提供は伊崎実那氏、トキは筆者撮影)

表5. 職業（複数回答を含む）。

| 選択肢 | 人数 | (%)* |
|-------------------|-----|--------|
| 勤め人（会社員など） | 110 | (39.4) |
| 無職 | 54 | (19.4) |
| アルバイト・パートタイム | 39 | (14.0) |
| 家事専業 | 35 | (12.5) |
| 自営業（商業・工業・サービス業） | 19 | (6.8) |
| 学生 | 12 | (4.3) |
| 公務員，団体職員，教員 | 10 | (3.6) |
| 農業 | 2 | (0.7) |
| 農業以外の1次産業（林業，水産業） | 0 | (0.0) |
| その他 | 1 | (0.4) |

*%の数値は回答者279人を母数として算出したもの。

表6. 環境問題への関心。

| 選択肢 | 人数 | (%) |
|------|-----|---------|
| 関心あり | 193 | (69.2) |
| 関心なし | 86 | (30.8) |
| 回答者数 | 279 | (100.0) |

表7. 回答者と調査対象者の比較：年代。

| | 20歳代 (%) | 30歳代 (%) | 40歳代 (%) | 50歳代 (%) | 60歳代 (%) | 70歳代 (%) | 計 (%) |
|------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|
| 回答者 | 14 (5.3) | 39 (14.7) | 62 (23.4) | 68 (25.7) | 54 (20.4) | 28 (10.6) | 265 (100.0) |
| 国勢調査 | 13992 (12.3) | 15264 (13.4) | 22229 (19.6) | 18849 (16.6) | 19890 (17.5) | 23437 (20.6) | 113661 (100.0) |
| 理論値 | 33 (12.5) | 36 (13.6) | 52 (19.6) | 44 (16.6) | 46 (17.4) | 55 (20.8) | 265 (100.0) |

注：有意差が認められた ($\chi^2 = 40.37$, 有意水準1%, d.f. = 5)

1-2) 回答者と調査対象者の比較

回答者が母集団を代表しているのかについて検討するために、回答者の属性を、野田市全域の住民構成と比較する。年代については2020年の国勢調査、性別についてはアンケート対象者を無作為抽出した時期とほぼ同時期の2022年1月1日時点での住民基本台帳を用いて、今回のウェブ調査回答者の年代別と性別それぞれでの属性の構成と、国勢調査あるいは住民基本台帳と「適合度検定」(西平 1985)を行った。

その結果、年代・性別では、国勢調査および住民基本台帳の構成と回答者は有為な差が認められることになり、構成が異なるという結果を得た(表7)。年代では特に20歳代、50歳代、70歳代において違いが見られた。性別では男性が多くなった(表8)。

以上の結果から、今回の回答者は、年代および性別では一部代表性が認められないことが示された。ただし、モニター登録の状況についてそもそも開示されないウェブ

調査を行ったものであるため、不可抗力によって生じていることであると考えられる。本報告では、こうしたウェブ調査の限界について十分考慮した上で分析をすすめていくこととする。

2. 住民が捉える野生復帰に関する意識

「住民が捉える野生復帰に関する意識」について、野田市内の環境政策およびコウノトリ保護の認識(2-1)、野田市内でのコウノトリの目撃(2-2)、野生復帰の認識(2-3)、コウノトリの位置づけ(2-4)、コウノトリの生息(2-5)、コウノトリの保護のための環境教育・啓発活動(2-6)、野田市について(2-7)、の7項目を以下の通り整理する。

2-1) 野田市内の環境政策およびコウノトリ保護の認識

コウノトリを野田市民がそもそも認知しているかどうかについては、コウノトリを含めた4種の野鳥の写真(図1)からコウノトリを選んでもらう質問をした。その結果、正解率は56.3%となった(表9)。

表8. 回答者と調査対象者の比較：性別.

| | 男 (%) | 女 (%) | 計 (%) |
|--------|--------------|--------------|----------------|
| 回答者 | 163 (58.8) | 114 (41.2) | 277 (100.0) |
| 住民基本台帳 | 77307 (50.3) | 76500 (49.7) | 153807 (100.0) |
| 理論値 | 139 (50.2) | 138 (49.8) | 277 (100.0) |

注：有意差が認められた ($\chi^2 = 8.16$, 有意水準1%, d.f. = 1)

表9. 4種の写真からのコウノトリの選定.

| 選択肢 | 人数 | (%) |
|--------------|-----|---------|
| (1) 不正解：アオサギ | 14 | (5.0) |
| (2) 不正解：コサギ | 72 | (25.8) |
| (3) 正解：コウノトリ | 157 | (56.3) |
| (4) 不正解：トキ | 36 | (12.9) |
| 回答者数 | 279 | (100.0) |

表10. 野田市の環境政策等への認識に関する質問についての集計結果.

| 質問項目 | はい (%) | いいえ (%) | 存在を知らない (%) | 回答者数 |
|---|------------|------------|-------------|------|
| (1) 野田市の環境政策に関心があるか | 164 (58.8) | 115 (41.2) | - (-) | 279 |
| (2) 2021年に改訂された「野田市環境基本計画」を知っているか | 40 (14.3) | 239 (85.7) | - (-) | 279 |
| (3) 「生物多様性」という言葉を聞いたことがあるか | 169 (60.6) | 110 (39.4) | - (-) | 279 |
| (4) 2015年3月に策定された「生物多様性の戦略」を知っているか | 36 (12.9) | 243 (87.1) | - (-) | 279 |
| (5) 「関東エコロジカル・ネットワーク」の取り組みを知っているか | 22 (7.9) | 257 (92.1) | - (-) | 279 |
| (6) 野田市の農業と自然が共生することを目的に「野田自然共生ファーム」が設立されていることを知っているか | 97 (34.8) | 182 (65.2) | - (-) | 279 |
| (7) 野田自然共生ファームが開催する「市民農園」に参加したことがあるか | 18 (6.5) | 185 (66.3) | 76 (27.2) | 279 |

表11. コウノトリの保護への認識に関する質問についての集計結果.

| 質問項目 | はい (%) | いいえ (%) | 存在を知らない (%) | 回答者数 |
|---|------------|------------|-------------|------|
| (1) コウノトリという鳥を知っているか | 256 (91.8) | 23 (8.2) | - (-) | 279 |
| (2) 野生のコウノトリを見たことがあるか | 47 (16.8) | 232 (83.2) | - (-) | 279 |
| (3) コウノトリが絶滅のおそれがあることを知っているか | 218 (78.1) | 61 (21.9) | - (-) | 279 |
| (4) 兵庫県豊岡市においてコウノトリの野生復帰事業が行われていることを知っているか | 81 (29.0) | 198 (71.0) | - (-) | 279 |
| (5) 2015年から野田市においてコウノトリの野生復帰（放鳥）が実施されていることを知っているか | 189 (67.7) | 90 (32.3) | - (-) | 279 |
| (6) 野田市内にあるコウノトリの飼育施設「こうのとりの里」に行ったことがあるか | 67 (24.0) | 174 (62.4) | 38 (13.6) | 279 |

野田市の環境政策を含めた取り組みに関する認識については、表10に整理した通りとなった。野田市の環境政策への関心については、「はい」（関心がある）が58.8%、また生物多様性という言葉の認知については60.6%であった。しかし実際の個々の施策についての認知、例えば「野田市環境基本計画」の認知については14.3%、「生物多様性の戦略」の認知については12.9%と低かった。コウノトリに関する政策においても、「関東エコロジカル・ネットワーク」の取り組みについての認知は7.9%とわずかであり、「野田自然共生ファーム」の認知は34.8%であった。なお野田自然共生ファームが実施している市民農園への参加経験は6.5%、市民農園の「存在を知らない」という回答者は27.2%であった。

コウノトリの保護への認識については6つの質問をし、結果を表11にまとめた。コウノトリという鳥について、「知っている」とした割合は約9割であったが、「絶滅のおそれがあることを知っている」とした割合は約7割と、コウノトリの存在を理解していることとコウノトリの現実の状況に関する認識とでギャップが見られた。また「兵

庫県豊岡市内で野生復帰事業が行われていることを知っている」と、「野田市内で2015年から放鳥が実施されていることを知っている」は、それぞれ29.0%、67.7%となり、野田市内での放鳥についての方が野田市民にとっての認知度は高かった。野生のコウノトリを見たことがある割合は16.8%とあまり高くなく、野田市内の飼育施設「コウノトリの里」に「行ったことがある」という割合は24.0%、さらに「存在を知らない」は13.6%であった。

2-2) 野田市内でのコウノトリの目撃

野田市内でのコウノトリの目撃の実態については、回答者の12.5%が目撃していたと回答した（表12）。目撃頻度（表12）については、「今までに1, 2回程度」の目撃が48.6%、「今までに3, 4回程度」の目撃が34.3%となった。

2-3) 野生復帰の認識

野田市内での野生復帰に関連した質問の結果は以下の通りである。まず野田市内で野生復帰（放鳥）を実施することの賛否については、「おおいに賛成」が33.7%と最も多く選ばれ、次に「どちらともいえない」（29.7%）、「どちらかといえば賛成」（26.9%）が続いた（表13）。一方で「ど

表12. 野田市内での目撃の有無と「目撃あり」とした回答者の目撃頻度.

| 目撃の有無 | *目撃頻度 | 人数 | (%) |
|-------|--------------|-----|---------|
| あり | | 35 | (12.5) |
| | ほぼ毎日 | 1 | (2.9) |
| | 週に2~5回程度 | 0 | (0.0) |
| | 週に1回程度 | 1 | (2.9) |
| | 今までに5回~10回程度 | 4 | (11.4) |
| | 今までに3, 4回程度 | 12 | (34.3) |
| | 今までに1, 2回程度 | 17 | (48.6) |
| なし | その他 | 0 | (0.0) |
| なし | | 244 | (87.5) |
| 回答者数 | | 279 | (100.0) |

*目撃頻度の%の数値は、目撃ありと回答した35人を母数として算出したもの。

表13. 野生復帰の賛否.

| 選択肢 | 人数 | (%) |
|------------|-----|---------|
| おおいに賛成 | 94 | (33.7) |
| どちらかといえば賛成 | 75 | (26.9) |
| どちらともいえない | 83 | (29.7) |
| どちらかといえば反対 | 14 | (5.0) |
| おおいに反対 | 13 | (4.7) |
| 回答者数 | 279 | (100.0) |

表14. 野生復帰に「賛成」、「どちらともいえない」、「反対」の理由（複数回答含む）.

| 賛否 | 理由（選択肢） | 人数 | (%)* |
|-----------|----------------------------|-----|--------|
| 賛成 | | 169 | - |
| | コウノトリにとっていいことだから | 99 | (58.6) |
| | 環境にとっていいことだから | 95 | (56.2) |
| | もともと野生の鳥だから | 73 | (43.2) |
| | 野田市の活性化になるから | 70 | (41.4) |
| | 農業にとっていいことだから | 31 | (18.3) |
| | 経済効果を生み出せるから | 20 | (11.8) |
| | 観光客が増えるから | 14 | (8.3) |
| | 野外にいるコウノトリを見て、肯定的な感想を持ったから | 6 | (3.6) |
| | その他 | 2 | (1.2) |
| どちらともいえない | | 83 | - |
| | コウノトリに興味・関心がないから | 31 | (37.3) |
| | 野生復帰がうまくいくかわからないから | 29 | (34.9) |
| | 賛成・反対の気持ちをも両方感じているから | 17 | (20.5) |
| | 自分の生活に関係があるかわからないから | 14 | (16.9) |
| | その他 | 7 | (8.4) |
| 反対 | | 27 | - |
| | 資金の無駄だ／他の施策に資金をまわすべきだと思うから | 21 | (77.8) |
| | 自分に何のメリットもないから | 6 | (22.2) |
| | 野生復帰なんて無理／成功しないと思うから | 3 | (11.1) |
| | コウノトリを目的に観光客などのよそ者が大勢来るから | 1 | (3.7) |
| | 農業に被害を与えるかもしれないと思うから | 0 | (0.0) |
| | コウノトリに気をつかわなければならないと思うから | 0 | (0.0) |
| | 野外にいるコウノトリを見て、否定的な感想を持ったから | 0 | (0.0) |
| | その他 | 3 | (11.1) |

*%の数値は、「賛成」「どちらともいえない」「反対」と回答した人数を母数として算出したもの。

ちらかといえば反対」「おおいに反対」は合計して9.7%であった。

野田市内での野生復帰について「賛成」（「おおいに」「どちらかといえば」を含む）・「どちらともいえない」・「反対」（「おおいに」「どちらかといえば」を含む）の理由は、以下の通りである（表14）。

「賛成」の理由で最も選ばれていた回答は、「コウノトリにとっていいことだから」（58.6%）であり、「環境にとっていいことだから」（56.2%）とほぼ同程度であった。「その他」の記述回答には、「人間のせいで減ってしまったと思うから」、「生きて行けるかがとても心配です

が、本当はコウノトリにとって良い事なのだと思いますので」といった内容があった。

野生復帰について「どちらともいえない」と回答した理由については、「コウノトリに興味・関心がないから」と「野生復帰がうまくいくかわからないから」がほぼ同程度に多く選ばれていた。「その他」では、「野生復帰のための環境整備が見えていないから」、「野生復帰することのメリットが分からないから」、「詳しい内容を理解していないから」、「コウノトリが住めなくなった原因は環境破壊からであり、根本的な原因を無視してコウノトリを自然に帰すのは可哀そう。」、「税金」、「絶滅危惧種の

表15. 野生復帰に関する期待の有無と期待する内容.

| 期待の有無 | *期待する内容 (選択肢) | 人数 | (%) |
|-------|--------------------|-----|---------|
| 期待する | | 155 | (55.6) |
| | 自然環境の復元 | 106 | (68.4) |
| | 野田市としてのまとまり | 16 | (10.3) |
| | 農作物の付加価値化による農業の活性化 | 12 | (7.7) |
| | 観光客の増加 | 9 | (5.8) |
| | 地域経済の振興 | 9 | (5.8) |
| | その他 | 3 | (1.9) |
| 期待しない | | 124 | (44.4) |
| 回答者数 | | 279 | (100.0) |

*期待する内容の%の数値は、期待すると回答した155人を母数として算出したもの。

表16. 野田市内で放鳥したコウノトリの多くが野田市内で定着しないことについての意見 (複数回答含む).

| 選択肢 | 人数 | (%)* |
|-----------------------------------|-----|--------|
| 野生の生きものなので仕方がない | 165 | (59.1) |
| 野田市でコウノトリが生息できない原因を究明すべきだと思う | 98 | (35.1) |
| 野田市内の自然環境の整備が必要と感じる | 85 | (30.5) |
| 野田市以外の自治体でコウノトリが生息していれば構わない | 72 | (25.8) |
| 野田市でコウノトリが生息できるような自然環境はないので難しいと思う | 46 | (16.5) |
| 今まで費やした資金の無駄だと思う | 31 | (11.1) |
| 今以上に野生復帰 (放鳥) する必要があると思う | 24 | (8.6) |
| これ以上野生復帰 (放鳥) をする必要がないと思う | 20 | (7.2) |
| 関心・興味がない | 17 | (6.1) |
| その他 | 3 | (1.1) |

*%の数値は回答者279人を母数として算出したもの。

繁殖を促す事自体はとても素晴らしい事だと思いますが、野田市は解決しないといけな問題点が多すぎて正直優先度は低いと思う」、「自然は大事だと思っていますが、市税を使うことにより、他の市より、今回コロナ禍で、野田市の市税に余裕はない」等といった、取り組み自体をよく知らないという理由と、取り組み自体を評価しつつも費用面での懸念を示す記述が見られた。

野生復帰について「反対」の理由では、「資金の無駄だ/他の施策に資金をまわすべきだと思うから」が最も多く選ばれた。なお、野田市ではコウノトリの野生復帰事業の取り組みに税金を用いていないため、今回のウェブ調査でも注意書きで「野田市のコウノトリの野生復帰の資金には、『みどりのふるさと基金』が活用されており、税金は使われておりません。」と明記したが、資金そのものの支出についての異論が「反対」意見の中心となる結果となった。「その他」では「鳥が嫌い」、「月二回の市報は無駄、月一回で十分」、「野生復帰したとしても生存できるか分からないから今の環境で生存し続けられるかわからないから」といった回答が見られた。

野生復帰に関する期待の有無について、「期待する」と答えたのは55.6%であった (表15)。また「期待する」内容については、最も多かったのが「自然環境の復元」(68.4%) となった。次に選ばれたのは「野田市としての

まとまり」(10.3%) であったが、これらの回答割合で差が大きく、回答者の多くが環境面での効果を期待している傾向が見て取れる (表15)。

これまで野田市内で実施してきた野生復帰について、放鳥した多くのコウノトリが市内に定着していないという現状について尋ねたことを整理する。この質問のリード文では、「これまで野田市ではコウノトリを14羽放鳥してきましたが (2021年12月21日時点でそのうち4羽は死亡)、ほとんどが野田市内に定着していません。そのことに関して、どのように思いますか?」とした。結果は「野生の生きものなので仕方がない」が59.1%と最も多く選ばれた (表16)。「野田市でコウノトリが生息できない原因を究明すべきだと思う」と「野田市内の自然環境の整備が必要と感じる」もそれぞれ3割程度選択されているため、野田市内に放鳥したコウノトリが定着していないことは野生復帰の取り組みに対する否定に影響するわけではない、ということが明らかになった。

2.4) コウノトリの位置づけ

回答者にとってコウノトリがどのような位置づけであるか、またコウノトリはどのような存在なのかについて尋ねた質問を整理する。まず「あなたにとって『コウノトリ』とは何ですか」という質問の結果は、「貴重な鳥」(29.6%) が最も多く選ばれた (表17)。次に「豊か

表17. 回答者にとっての「コウノトリ」.

| 選択肢 | 人数 | (%) |
|------------------|-----|---------|
| 貴重な鳥 | 81 | (29.0) |
| 豊かな環境の象徴やバロメータ | 50 | (17.9) |
| 別に何も思わない | 49 | (17.6) |
| 他の生きものと一緒 | 32 | (11.5) |
| 野田市の誇り／象徴／シンボル | 27 | (9.7) |
| 野田市の活性化の起爆剤／きっかけ | 14 | (5.0) |
| 一度絶滅した鳥 | 9 | (3.2) |
| 経済効果を生み出すもの | 6 | (2.2) |
| 世話のかかるもの／面倒なもの | 5 | (1.8) |
| 農作物を販売するうえでの付加価値 | 2 | (0.7) |
| 苗を踏み倒す害鳥 | 1 | (0.4) |
| その他 | 3 | (1.1) |
| 回答者数 | 279 | (100.0) |

表18. コウノトリや野生復帰・放鳥についての意見（自由記述）.

| 回答 | 人数 | (%) |
|--|-----|---------|
| 取り組みを評価（いい取り組み・続けてほしい・頑張ってもらいたい等） | 45 | (26.5) |
| コウノトリについて（見かけると嬉しい・野田で定着してほしい・見たい・知りたい等） | 19 | (11.2) |
| 環境整備の必要性 | 17 | (10.0) |
| お金の無駄・お金をかけないでほしい・他の取り組みが優先・支出の情報公開 | 15 | (8.8) |
| 提案（もっとPRすべき・情報発信・市民参加） | 11 | (6.5) |
| 取り組みをやめるべき・必要ない・難しい | 10 | (5.9) |
| 観光や経済発展につなげてほしい | 5 | (2.9) |
| 環境教育等の教育や意識啓発につなげてほしい | 5 | (2.9) |
| コウノトリが増えてほしい | 5 | (2.9) |
| 情報不足・勉強になった | 5 | (2.9) |
| 提案（もっと自然の多いところで放鳥すべき） | 4 | (2.4) |
| 他の地域で生息していればいい | 4 | (2.4) |
| コウノトリに着目することへの疑問 | 3 | (1.8) |
| コウノトリがかわいそう | 2 | (1.2) |
| その他 | 20 | (11.8) |
| 回答者数 | 170 | (100.0) |

な環境の象徴やバロメータ」(17.9%)が選ばれたが、「別に何も思わない」(17.6%)とほぼ同程度であった。さらにその次に選ばれていたのは「他の生きものと一緒」(11.5%)であった。

「コウノトリについて／野生復帰・放鳥について」の自由記述欄に寄せられた回答の集計結果を整理する。自由回答欄に「ない」「わからない」と記述した109名を除く170人からの記述の回答を集計した結果は、表18の通りとなった。コウノトリの野生復帰の取り組みを評価する内容（例えば「続けてほしい」や「頑張ってもらいたい」等）が最も多い回答であった。次に多く回答されたのは、「野田で定着してほしい」や「見たい」とする希望の内容や、環境整備を求める内容であった。また「お金の無駄」とする回答や、野生復帰の取り組みを必要としないという回答に関するものを合算すると、約15%となった。野生復帰の取り組みについてPRの必要性を記述した回答や、豊岡市のように観光や活性化につなげてほしいとする回答も見られた。「その他」はそれぞれ1人のみからあった

回答を合計したものであり、例えば「かわいい」、「コウノトリには幸せに生きてほしいです」、「地域の自然環境にどのように貢献できているのか」、「田畑で農薬噴霧しているのを目撃するが、コウノトリの餌になるミミズも育たないと思う」、「興味がない」等が記述された。

2-5) コウノトリの生息

野田市内でコウノトリが生息することへの希望について尋ねた結果は、表19の通りとなった。回答者の59.5%がコウノトリに「生息してほしい」と回答した。また、野田市内でコウノトリに生息して欲しいと希望した理由については、「自然環境が豊かであることを示すから」(45.2%)が最も多く選ばれ、「野田市の誇り・象徴・シンボルとなるから」(21.1%)、「コウノトリが見たいから」(14.5%)、「野田市の活性化につながるから」(10.2%)が続いた（表19）。

野田市内のコウノトリの生息数が増加するために何かをする意思（参加姿勢）の有無を尋ねた結果、「はい」（意思あり）は35.8%となり、「いいえ」（意思なし）は64.2%

表19. 野田市内での生息希望とその理由.

| 選択肢 | *生息希望の理由 (選択肢) | 人数 | (%) |
|-------------|---------------------|-----|---------|
| 生息してほしい | | 166 | (59.5) |
| | 自然環境が豊かであることを示すから | 75 | (45.2) |
| | 野田市の誇り・象徴・シンボルとなるから | 35 | (21.1) |
| | コウノトリが見たいから | 24 | (14.5) |
| | 野田市の活性化につながるから | 17 | (10.2) |
| | コウノトリを飼育しているから | 9 | (5.4) |
| | 経済効果を生み出すから | 2 | (1.2) |
| | その他 | 4 | (2.4) |
| 生息してもらいたくない | | 6 | (2.2) |
| どちらでもいい | | 86 | (30.8) |
| 関心がない | | 21 | (7.5) |
| 回答者数 | | 279 | (100.0) |

*生息希望の理由の%の数値は、生息してほしいと回答した166人を母数として算出したもの。

表20. 野田市内でのコウノトリの生息数が増加するために何かする意思の有無およびする内容 (複数回答含む).

| 意思の有無 | *する内容 (選択肢) | 人数 | (%) |
|------------|---|-----|---------|
| はい (意思あり) | | 100 | (35.8) |
| | 環境に配慮した生活を実践する (ごみ減量, 省エネなど) | 76 | (76.0) |
| | コウノトリを大事に思うようにする | 55 | (55.0) |
| | コウノトリの生息地づくりに協力する (田んぼ・湿地・里山など) | 38 | (38.0) |
| | 農薬をできるだけ使わない/農薬をできるだけ使っていない作物を買う | 28 | (28.0) |
| | コウノトリを活かした経済活動に協力する (コウノトリ関連商品の販売・購入など) | 23 | (23.0) |
| | その他 | 1 | (1.0) |
| いいえ (意思なし) | | 179 | (64.2) |
| 回答者数 | | 279 | (100.0) |

*「する内容」の%の割合は、はい (意思あり) と回答した100人を母数として算出したもの。

表21. 環境教育や啓発活動の対象.

| 選択肢 | 人数 | | | |
|-------------------------|-----|---------|-----|---------|
| | 1番目 | (%) | 2番目 | (%) |
| 生息地周辺の住民 | 49 | (17.6) | 38 | (13.6) |
| 野田市全域の住民 | 89 | (31.9) | 85 | (30.5) |
| 野田市全域の子ども (保育園・幼稚園～高校生) | 25 | (9.0) | 36 | (12.9) |
| 行政の職員 | 20 | (7.2) | 23 | (8.2) |
| 野田市内の農業従事者 | 6 | (2.2) | 25 | (9.0) |
| 観光業者 | 2 | (0.7) | 12 | (4.3) |
| 観光客 | 2 | (0.7) | 15 | (5.4) |
| 野田市に限らず、国民全体 | 86 | (30.8) | 44 | (15.8) |
| その他 | 0 | (0.0) | 1 | (0.4) |
| 回答者数 | 279 | (100.0) | 279 | (100.0) |

となった (表20)。意思ありと回答した回答者が具体的にどのような参加をしようとするかについては、「環境に配慮した生活を実践する」(76.0%) が最も多く、それに「コウノトリを大事に思うようにする」(55.0%) が続いた (表20)。

2-6) コウノトリの保護のための環境教育・啓発活動

コウノトリの保護のための環境教育や啓発活動についての「対象」「内容」「方法」についてそれぞれ尋ねた結果は以下の通りである。まず環境教育や啓発活動の「対象」については、1番目と2番目の対象を回答してもらう形式をとった (表21)。1番目として最も多かったのが「野田市全域の住民」であるが、「国民全体」もそれと同程

度選ばれ、この2つに回答が集中した。2番目としては、「野田市全域の住民」が最も多く選ばれた。

環境教育や啓発活動の「内容」については、「コウノトリを含む野田の自然環境」が最も多く選ばれ、それに「コウノトリの生態・特徴」が続いた (表22)。環境教育や啓発活動の「方法」としては、「学校の授業の中での学習・体験活動」が最も多く選ばれ、「インターネットのサイトを通じた定期的な情報の発信」が続いた (表23)。

コウノトリの保護のための環境教育や啓発活動が野田市で必要かどうかについて尋ねた結果は、「はい」とした回答が53.8%となった。その一方で「わからない」と

表22. 環境教育や啓発活動の内容.

| 選択肢 | 人数 | (%) |
|------------------------------|-----|---------|
| コウノトリを含む野田の自然環境 | 82 | (29.4) |
| コウノトリの生態・特徴 | 51 | (18.3) |
| コウノトリが生息している場所の情報 | 24 | (8.6) |
| 今後のコウノトリの野生復帰計画の展望 | 24 | (8.6) |
| コウノトリの飼育数および野生下での生息数 | 22 | (7.9) |
| コウノトリを活用した地域活性化の取り組み | 17 | (6.1) |
| コウノトリの天敵やコウノトリの生息を脅かす外来種について | 14 | (5.0) |
| 野田市によるコウノトリの保護政策 | 13 | (4.7) |
| 水田やビオトープに生息する生きもの | 12 | (4.3) |
| コウノトリと他の鳥との違いや見分け方 | 10 | (3.6) |
| 市民団体によるコウノトリの保護活動 | 1 | (0.4) |
| その他 | 9 | (3.2) |
| 回答者数 | 279 | (100.0) |

表23. 環境教育や啓発活動の方法.

| 選択肢 | 人数 | (%) |
|---------------------------|-----|---------|
| 学校の授業の中での学習・体験活動 | 71 | (25.4) |
| インターネットのサイトを通じた定期的な情報の発信 | 56 | (20.1) |
| ポスターやチラシ、ステッカーなどを活用した広報活動 | 37 | (13.3) |
| コウノトリに関するイベント・研修会・講習会の実施 | 31 | (11.1) |
| 生息地整備などのボランティア活動 | 29 | (10.4) |
| コウノトリの見学や観察 | 23 | (8.2) |
| 紙媒体の広報誌を通じた定期的な情報の発信 | 22 | (7.9) |
| その他 | 10 | (3.6) |
| 回答者数 | 279 | (100.0) |

表24. 保護のための環境教育や啓発活動が野田市で必要かどうか.

| 選択肢 | 人数 | (%) |
|-------|-----|---------|
| はい | 150 | (53.8) |
| いいえ | 43 | (15.4) |
| わからない | 86 | (30.8) |
| 回答者数 | 279 | (100.0) |

表25. 保護のための環境教育や啓発活動が野田市で行われていると思うか.

| 選択肢 | 人数 | (%) |
|----------------|-----|---------|
| 十分に行われていると思う | 16 | (5.7) |
| 少し行われていると思う | 99 | (35.5) |
| あまり行われていないと思う | 70 | (25.1) |
| まったく行われていないと思う | 14 | (5.0) |
| わからない | 80 | (28.7) |
| 回答者数 | 279 | (100.0) |

表26. 「野田を象徴するもの」のイメージ.

| 回答 | 人数 | (%) |
|---------------|-----|---------|
| 醤油 (キッコーマン含む) | 198 | (78.3) |
| 枝豆 | 15 | (5.9) |
| コウノトリ | 9 | (3.6) |
| 自然・緑豊か | 7 | (2.8) |
| 田舎 | 3 | (1.2) |
| 清水公園 | 2 | (0.8) |
| その他 | 19 | (7.5) |
| 合計 | 253 | (100.0) |

する回答も30.8%となった(表24)。またコウノトリの保護のための環境教育や啓発活動が野田市でどの程度行われていると思うかと尋ねた結果は、「少し行われていると思う」が35.5%と最も選ばれ、「わからない」(28.7%)「あまり行われていないと思う」(25.1%)が続いた(表25)。

2-7 野田市について(象徴するもの, 自然, 環境課題)

野田市全般について、「野田を象徴するもの」、「野田の自然」、「野田の環境課題」のそれぞれについて自由記述形式で質問した結果は、以下の通りとなった。

まず「野田を象徴するもの」について、「ない」「わからない」と回答した26名を除く、253人からの回答を集計した。その結果は表26となった。「醤油(キッコーマン含む)」が78.3%と最も多く回答された。「その他」はそれぞれ1人のみの回答を合計した数値(7.5%)であり、

例えば「イチイの木」、「つつじ」、「豆バス」、「利根川」、「踊り七夕」、「忍者」、「やよい食堂」等が挙げられた(表26)。

続いて「野田の自然」について、「ない」「わからない」と回答した44名を除く、235人からの回答を集計した。その結果は表27となり、「江戸川・利根川・川・河川敷」(25.1%)と「清水公園」(24.3%)がほぼ同程度で回答された。なお、「田んぼ・水田・田畑・田園」と「森・林・雑木林」、そして「里山・谷津」を、すべて「里山」として集計すると36.8%となり、最も多い回答割合となった。また「関宿」をはじめ、「今上」「福田」「三ツ堀」といった具体的な地名を挙げた回答も見られた。「その他」はそれぞれ1人のみの回答を合計した数値(8.1%)であり、例えば「江川ビオトープ」、「櫻木神社」、「船形」、「しらさぎ」、「ゴルフ場」、「干潟」、「大利根温泉」等が

表27. 「野田の自然」のイメージ.

| 回答 | 人数 | (%) |
|---------------|-----|---------|
| 江戸川・利根川・川・河川敷 | 59 | (25.1) |
| 清水公園 | 57 | (24.3) |
| 田んぼ・水田・田畑・田園 | 43 | (18.3) |
| 森・林・雑木林 | 12 | (5.1) |
| 関宿城・関宿地区・城下町 | 10 | (4.3) |
| 里山・谷津 | 8 | (3.4) |
| コウノトリ | 4 | (1.7) |
| 枝豆 | 4 | (1.7) |
| 緑 | 4 | (1.7) |
| 田舎 | 3 | (1.3) |
| 運河 | 2 | (0.9) |
| 今上 | 2 | (0.9) |
| 三ツ堀 | 2 | (0.9) |
| 福田 | 2 | (0.9) |
| 桜 | 2 | (0.9) |
| 原風景 | 2 | (0.9) |
| その他 | 19 | (8.1) |
| 回答者数 | 235 | (100.0) |

回答された (表27).

最後に「野田市の環境課題」について、「ない」「わからない」と回答した74名を除く205人からの回答を集計した。複数の内容が含まれている回答が多数あったので、複数回答で集計した。結果は表28となり、「ごみ問題」が最も多く記述されていた。なお「ごみ問題」をさらに具体的に分けて集計すると、「ごみのリサイクル・分別」と「ごみの処理 (焼却場・処分場)」、「ごみの不法投棄・ポイ捨て」に大きく分けられる。そして「ごみのリサイクル・分別」については、現状のごみ分別制度についての賛否が分かれていた。また、ごみ袋の有料制度や記名式については不満が出現していた。「自然環境の減少・整備・保護」については、宅地開発等で森林の伐採を問題視する意見や、開発規制・開発との調和を求める意見が記述された。「その他」はそれぞれ1人のみの回答を合計した数値 (9.3%) であり、例えば「違法残土、太陽光発電の乱立」、「野良猫の除去」、「ゴルフ場を緑と認識している事」、「全てが中途半端」等が記述された (表28)。

考察

野田市において最初のコウノトリの放鳥が行われた2015年から、約6年半が経過した2022年の時点で実施したウェブ調査の結果を整理したところ、野田市民はコウノトリおよびコウノトリの野生復帰を肯定的に捉えている、ということが確認できた。また、野田市民はコウノトリを「貴重な鳥」や「環境のバロメータ」と捉えてい

表28. 野田市の環境課題.

| 回答 | 人数 | (%) |
|--|-----|--------|
| ごみ問題 | 101 | (49.3) |
| 自然環境 (森林含む) の減少・整備・保護 (開発規制や開発との調和も含む) | 52 | (25.4) |
| 道路整備 | 5 | (2.4) |
| 農地の荒廃・減少 | 5 | (2.4) |
| 河川整備 (水害対策含む) | 5 | (2.4) |
| 地域の経済発展・活性化 | 5 | (2.4) |
| 公共交通の整備 (充実) | 4 | (2.0) |
| 市政への不満 | 4 | (2.0) |
| 空き家・空き地問題 | 3 | (1.5) |
| 交通量の多さ (排ガス) | 3 | (1.5) |
| 農薬による汚染 | 3 | (1.5) |
| 都市計画 (市街化調整区域を守る等) | 3 | (1.5) |
| 施設の老朽化・インフラ整備 | 2 | (1.0) |
| 下水道の普及 | 2 | (1.0) |
| サギによる被害 (農業被害) | 2 | (1.0) |
| 野生動物による被害 (農業被害含む) | 2 | (1.0) |
| 施設の老朽化・インフラ整備 | 2 | (1.0) |
| その他 | 19 | (9.3) |
| 回答者数 | 205 | - |

る傾向がある、ということが明らかとなった。

今回の調査の結果については、2015年の放鳥前に実施したアンケートの結果 (高橋・本田2016) と一部の質問への回答傾向が異なったものであった (注2)。ただ全般的には、2015年の最初の放鳥の頃に市民に把持されたコウノトリおよびコウノトリの野生復帰事業に対するまなざしは変化なく継続して保たれている。

結果の中で、野生復帰に期待する内容として「自然環境の復元」が挙げられ、また野田市内にコウノトリが生息してほしい理由に「自然環境が豊かであることを示すから」が多く選ばれたことについては、コウノトリとその生息を「環境のバロメータ」とする認識が市民の中に醸成されているからと考えられる。この要因としては野田市で自然と農業の共生する地域づくりがすすめられ、またそこが市民への環境教育の場となって農業体験学習が行われている (木全 2021) ことなどが挙げられる。放鳥したコウノトリの大半が残念ながら野田市内に定着していないことについては、野田市民は「野生の生きものなので仕方がない」と捉える傾向が見られる。このことと同時に、「野田市でコウノトリが生息できない原因を究明すべきだと思う」や「野田市内の自然環境の整備が必要と感じる」という回答もあるので、放鳥したコウノトリが未定着となっている原因を探りつつ、野田市内の自然環境のさらなる再生や整備に取り組んでいくことは、野生復帰の事業をより充実させていく上で必要な作業といえる。現時点で野田市内にコウノトリが定着・野外繁殖をしていないことについては、野田市民は野生復

表29. 環境教育・意識啓発実施に関する認識についての年代別集計結果.

| 年代 | 行われていると思う | (%) | 行われていないと思う | (%) | 計 | (%) |
|--------|-----------|--------|------------|--------|-----|---------|
| 30歳代以下 | 25 | (58.1) | 18 | (41.9) | 43 | (100.0) |
| 40歳代 | 18 | (40.9) | 26 | (59.1) | 44 | (100.0) |
| 50歳代 | 26 | (57.8) | 19 | (42.2) | 45 | (100.0) |
| 60歳代以上 | 46 | (68.7) | 21 | (31.3) | 67 | (100.0) |
| 全体 | 115 | (57.8) | 84 | (42.2) | 199 | (100.0) |

注：カイ二乗検定を実施するにあたり、期待値5未満のセルが25%以上となるのを防ぐため、「十分に行われていると思う」と「少し行われていると思う」の合計を「行われていると思う」とし、「あまり行われていないと思う」と「まったく行われていないと思う」の合計を「行われていないと思う」とした。検定の結果、有意差が認められた ($\chi^2 = 8.39$, 有意水準5%, d.f. = 3)。

婦の取り組みを特段否定的に捉えることがないのは特徴的である。むしろコウノトリを「環境のパロメータ」として野田市の環境再生が必要であると認識しているのは、今後野田市内で行われる環境教育や意識啓発に求められる内容を示す結果でもあろう。コウノトリに象徴されるよう野田市の生物多様性を豊かにしていくことが市民にとってメリットとなるばかりでなく、それ自体が市民の願いであるということ为前提として、コウノトリに焦点をあてた環境教育や意識啓発が野田市で企画され実施されるとしたら、野田市で放鳥したコウノトリが野田市内にとどまることなく関東県内で次第に生息域を拡散していくという事実を材料として、自然や環境を広域圏で捉える視点が重要であること、そしてコウノトリの生態学上の位置づけは自然保護や環境再生の活動に取り組む際のシンボルとして重要になり得るのであり、そのことについての発信を継続的に行っていくことが求められる。

野田市においてコウノトリに係る環境教育や意識啓発を具体的にどのようなターゲットに対して充実させるべきかについて、調査の結果から検討すると以下の通りとなる。表29によると、すでに野田市で環境教育・意識啓発が「行われていると思う」割合が高いのは60歳代以上であり、加えて30歳代以下と50歳代でも半数を超えた。このことは、「行われていないと思う」割合が各年代で低いことと表裏の関係である。つまりこれらの年代には一定程度、環境教育・意識啓発が行われていることが理解されていると考えられる。その一方で40歳代については、「行われていると思う」割合が他の年代と比べて極端に低く、同時に「行われていないと思う」割合が高い。つまり40歳代は何らかによって環境教育・意識啓発の取り組みから切り離されてしまっている状況にあり、環境教育によるメッセージの発信が十分に浸透していないことが推察される。したがってこの結果に従えば、より充実した環境教育や意識啓発の活動を検討するとして、40歳代へのアプローチが重要であるということに注目する

必要であろう。ただし、このことは今回の調査のみで断定できることではなく、継続的な調査によって傾向が同様かどうかを見極めていくことも必要である。

なお環境教育・意識啓発の方法について、「インターネットのサイトを通じた定期的な情報の発信」が2番目の多さで選択されていること（表23）については、今回の調査自体がインターネットを用いたウェブ調査であったことから、インターネットというツールを用いた環境教育・意識啓発という回答に選択バイアス（吉村 2020）が一定程度かかったであろうことは推察できる。ただし実際野田市のウェブサイト（注3）でも放鳥コウノトリの情報発信を継続して行っているため、その積極的な活用が期待されているということにつなげることも可能となる。

以上の考察を踏まえれば、当該野生復帰事業を推進するための環境教育・意識啓発という視野に固執することなく、生態学や社会学、教育学といったさまざまな学問分野を連携・横断させながら、これからの環境教育の企画と実践にあたっていくことが重要といえる。それにより、コウノトリの野生復帰に関する環境教育や意識啓発がより一層充実していくことが期待されるからである。なお、具体的な環境教育や意識啓発の形式や内容の検討は、別の稿での課題としたい。

2020年、2021年には栃木県小山市でコウノトリによる野外繁殖が観察され、また2021年10月からは埼玉県鴻巣市でもコウノトリの飼育が開始されている。コウノトリの野生復帰に取り組んでいる千葉県野田市の現在の住民意識の実態は、今後小山市や鴻巣市などで、住民と協働取組を企画し実践していく際にも参考となるし、また小山市や鴻巣市の住民意識と野田市のそれにどのような異同が生じるのかも大変興味深い点である。本報告を今後の調査・検討材料と位置づけ、コウノトリの野生復帰に係る各自自治体での調査と分析への取り組みを続けていくことも今後に残された課題である。

謝 辞

ウェブ調査に回答いただいた皆様にはお忙しいところ
回答いただき、まことにありがとうございました。また
ウェブ調査の実施に際しては、株式会社フォーラムにご
協力いただきました。

摘 要

千葉県野田市で最初のコウノトリの放鳥が行われてから約6年経過した時点で、野生復帰およびその事業に関する住民の意識を把握する目的として、2022年1月にかけてウェブ調査によりアンケートを実施した。モニター登録されている野田市在住の279人から回答を得ることができた。分析の結果、コウノトリの野生復帰が野田市で行われていることについては約60%の回答者が肯定的な意見を持っており、また野生復帰への期待についても同程度の回答者が「期待する」と回答した。そして回答者の約30%はコウノトリを「貴重な鳥」と認識し、「豊かな環境の象徴やバロメータ」および「別に何も思わない」という認識についてはそれぞれ約1/5を占めていた。コウノトリ保護のための環境教育・意識啓発については、対象者を「野田市全域の住民」と、野田市民に限らず「国民全体」とであるという意識を持っていることが把握できた。また半数以上の回答者が、環境教育や意識啓発はコウノトリ保護のために重要である、と認識していた。野田市でのコウノトリの野生復帰事業をより充実させていく方向性として、市民が求める自然環境のさらなる再生や整備に取り組んでいくことや、とりわけ40歳代への環境教育・意識啓発のアプローチが重要になってくることなどの考察を行った。

キーワード ウェブ調査, 環境教育, コウノトリ, 千葉県野田市, 野生復帰

注

(1) 日本学術会議社会学委員会Web調査の課題に関する

検討分科会「Web 調査の有効な学術的活用を目指して」(2021年12月31日閲覧)

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t292-3.pdf>

(2) 高橋・本田 (2016) はアンケート (質問紙調査) の結果を報告したものであるが、郵送法を用いたため回収率が低かったことは、本報告との比較をする上で留意すべき重要な課題である。

(3) 野田市ウェブサイト「コウノトリ放鳥情報」(2022年3月17日閲覧)

<https://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/oshirase/seikatsukankyo/1006581.html>

引用文献

木全敏夫 (2021) 自然と農業の共生する地域づくり. *グリーン・エージ*, 48(8):15-18.

西平重喜 (1985) 新数学シリーズ8 統計調査法 改訂版. 培風館, 東京, 215 p.

杉野 勇・小内 透 (2020) 特集によせて—インターネット上での社会調査を再考する— *社会学評論*, 71(1):18-28.

高橋正弘・本田裕子 (2016) 千葉県野田市におけるコウノトリ放鳥前段階の住民意識について. *野生復帰*, 4:55-67.

吉村治正 (2020) ウェブ調査の結果はなぜ偏るのか— 2つの実験的ウェブ調査から— *社会学評論*, 71(1):65-83.

付記

本報告で実施したウェブ調査は、令和3年度大正大学学術研究助成金「再導入事業における乗数的効果を企図した環境教育のガイドライン構築」(研究代表者: 高橋正弘) を受けたものである。